

登録コード	HM118200	開講年度	2026				
授業題目	内分泌学特論				担当教員	宮本 強 他	
英文授業名	Selected Topics in Gynecologic Endocrinology				副担当	小原 久典・樋口 正太郎	
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	博士課程 産科婦人科学専攻
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				各種婦人科疾患における女性ホルモンの役割の理解		
(2)詳細 /Detailed information	女性の性周期や妊娠の成立におけるホルモンの役割・作用機序を理解し、各種婦人科疾患におけるホルモン異常や、婦人科腫瘍発生におけるホルモンの役割を説明できるようになる。						
(3)授業の概要 /Overview of course	オムニバス形式の講義、もしくは実習形式で行う。						
(4)授業計画 /Course plan	1 回～ 4 回：女性内分泌器官の構造と組織、分泌される各種ホルモンの生化学的特性、性周期の確立、フィードバックシステムの機序（担当：樋口） 5 回～ 7 回：妊娠の成立と維持、およびそれにかかわる内分泌学的因子（担当：小原） 8 回～ 1 2 回：思春期、性成熟期、更年期、老年期における内分泌学的特徴とその異常に基づく各種疾患（担当：宮本） 1 3 回～ 1 5 回：内膜癌、子宮筋腫、卵巣癌などの婦人科腫瘍とそれに関連する内分泌異常（担当：宮本）						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：レポート提出50％、課題発表50％により評価を行う。 成績評価の基準：(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	講義・実習日程は、学生と担当教官で協議して決定する。 教科書は特になし。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	質問・相談に対しては、口頭および文書（電子メールなど）を利用し、適宜、対応する。						
(8)授業の形式 /Course format	パワーポイントでの教材を利用した講義、免疫染色等の実験を通した実習形式、論文演習等を各教官が行う。						